

2014年度 自己点検・評価 学内第三者評価シート

	対象部局	聖和短期大学
第三者評価記入欄		
1		<p>・シラバス作成において、2013年度から記載内容の見直しを行い、統一的な項目を専任教員をはじめ、非常勤教員まで徹底させて作成し、学生にも理解しやすいものとなるよう改善を行っている点は、たいへん評価できます。【1 教育の内容（目標4）】</p>
2		<p>・FD検討会にほぼ全員が参加していること、および今後FD部会でFD検討会で取り組む内容について検討し、授業改善に向けての不断の努力を行っていることは、たいへん評価できます。今後その方法の検討に際して、「学士課程教育の構築に向けて（審議のまとめ）」（平成20年3月25日、中央教育審議会大学分科会制度・教育部会）で指摘されている教員相互による「授業参観」を取り入れることにより、効果的な改善が望まれます。【1 教育の内容（目標5）】</p>
3		<p>・授業評価アンケートの内容について再検討し、項目を整理し、その項目を「学生自身について」と「授業内容について」の2つに区分するなど学生の視点に立った改善は、たいへん評価できます。【3 教育目標の達成度と教育の効果（目標1）】</p>
4		<p>・大学の使命として、「教育」「研究」「社会貢献」の3点が謳われ、「研究」においてはその成果を社会に還元することが求められています。その方法は多岐にわたりますが、そのひとつとして、「論集」が発行されていますが、短大の教員の論文が3件はいささか少ないように思います。学問分野の特質などもあろうかと思いますが、昨年度は10件の実績がありました。「論集」発行という目標は達成されていますが、その質に係る再考が望まれます。【5 研究（目標2）】</p>
5		<p>・短大の社会的活動である「さぼさぼ」「ういんぐ」などは、子育て支援など社会の関心の高さも相まって、一定の成果を上げられていることは、たいへん評価できます。今後とも、短大の資源を有効的に活用され、社会のニーズに答えていくことが一層期待されます。引き続き当該事業の着実な遂行を期待いたします。【6 社会的活動（目標3）】</p>
6		<p>・執行部と事務室の連携を促進・強化するため、定期的に教員および職員の役職者による学長室会を開催され、情報共有されていることは、評価できます。自己点検・評価において指摘されているとおり、今後は役職者のみならず、大学マネジメントを担う教員・職員全体による短大運営の方向性（ベクトル合わせ）などに係る研修を行うことが、より強固な短大運営に繋がると考えられることから、早期の合同研修会などの開催が期待されます。【7 管理運営（目標3）】</p>
7		<p>・関学の精神的基盤である「キリスト教主義」を体現するため、「キリスト教学」「キリスト教保育」を必修科目として教育課程に位置づけられ、併せて、授業日での学校礼拝を通して、その精神を育てられる取組は、たいへん評価できます。また、礼拝における司会、聖書朗読、奏楽などにより、学生の参与する機会を醸成する取組は、たいへん優れています。【10 キリスト教主義教育】</p>
8		<p>・国際化・グローバル化に係る取組の進展が進んでいないように見て取れます。今後、学院全体におけるミッションのなかで、短大の国際化・グローバル化の位置づけを明確にされ、その実現に向けての取組の構築・実践が望まれます。【13 国際交流】</p>
9		<p>・西宮聖和キャンパス全体で検討すべき危機管理、特にすべての災害に対応可能なマニュアルが作成できていないとの記述がありますが、昨今の状況などを勘案すると、学生の身の安全の確保などの観点からも、早急にマニュアルの作成、およびこれに基づいた行動指針がとれるような訓練などを実施することが求められます。【14 危機管理】</p>

10	<p>・ 0 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標。Ⅱ. 1. 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標は2013年度評価ではD評価から全てA評価を得ていることは素晴らしいことで、「院長を講師とした教職員合同の研修会をとおして、関西学院のミッションについて理解を深めることができた。」と書かれているとおりに思います。これからはどのような物差しで、具体的な効果が上がったかを明らかにすることが求められていると思います。このことは、0-Ⅱ. 2. にも当てはまることで、指標なり物差しで効果を評価することを考え出す必要があると思います。</p>
11	<p>・ 1 教育の内容 Ⅱ. C評価から全ての項目がA評価になったことは全教職員の意識向上の結果だと思えます。例えば「要覧」や「履修の手引き」などは、内容、書式、字数、等を決めれば全教員の統一は簡単なことのようにですが、教員一人ひとりの考え方があり、難しいことだったと推察されます。しかし、A評価になったことは短期大学として統一が取れて様式が整ったということで最低のラインが揃ったことと思えます。学生にとって理解しやすい内容になったと思えます。この項目は具体的な内容で評価できるので信頼性が高いと思えます。</p>
12	<p>・ 2 教育の実施体制 I-2 教育の実施体制 の進捗状況はCからAになったことは学生にとっても教授する教員にとっても良いことだと思います。2011年度より「個人研究費計画書」と「個人研究費研究経過（成果）報告書」を年度初めに提出するようにしたことは、教員にとっても年間計画を立てやすく、全教員にとっても、担当授業科目と研究が一致しているかを検証できるので、結果としてA評価になったのだと思えます。授業内容は最近10年ほどは文部科学省や厚生労働省によって良く変わり、それに対応した内容を授業する必要がある、社会の変化に対応して教員が研究することは必須です。「研究に対する意識が変化してきている。ただし個人差がある」という記載がありますが、そのとおりに思います。</p>
13	<p>・ 3 教育目標の達成度と教育の効果。Ⅱ-3. でB評価ですが、「就職先からの評価方法の検討および実施」がD評価からBに向上したのはそれなりの努力が見られます。学内の評価ならば改善も教職員の努力で進捗しますが、就職先という外部からの評価は難しい点があると思われれます。その方法を簡素化するか、評価方法を検討する必要があると思われれます。</p>
14	<p>・ 4 学生支援 4評価項目中3箇所がB評価なのは、難しい評価が潜んでいることが分かります。「2. 入学までの情報提供および入学前教育の充実」は、入学者の保育者になる準備不足、特にピアノ伴奏技能の低下が目立ちますが、入学以前に向上させることも難しさがあるのだと思われれます。しかし、短時間で向上することの難しい教科ですから、「ピアノの実技能力向上のためのプログラムの検討」を行ってA評価にしてください。「3. アンケート調査などによる学生生活の現状把握」は、アンケートを実施する事が目的ではないのですから、「分析の進捗状況」を早く実施して学生の援助に役立てて下さい。</p>
15	<p>・ 5 研究 3評価項目全部がAなのは大変良いことです。特に「聖和保育教育研究会は、毎年「聖和論集」を発行し研究発表会を開催するなど研究会活動も安定してきました。キリスト教教育・保育研究センターは、関西学院大学神学部および教育学部教員、聖和幼稚園教員も研究員となっており、キリスト教主義幼稚園・保育所、教会などで働く卒業生や保育者も参加して積極的に研究会が行われている」と良い点で述べられていますが、幼稚園教員、神学部・教育学部教員卒業生も参加して活動していることは、各部署の意見を取り入れ参加員の意識を高める上で大変有意義なことです。</p>
16	<p>・ 6 社会的活動 Ⅱ-2. 「地域の子育て家庭を対象としたオープンセミナー聖和キャンパス講座（幼児教育大学）の開催（教育学部、聖和幼稚園との共催）」はB評価です。その理由として「参加人数が減少傾向」や、開催時期の検討、をあげています。20年前にスタートしたときは、「先駆的な試み」であったが、「現在のオープンセミナーのあり方を抜本的に見直す」、「再検討する必要がある。」と評価している。素晴らしい活動でも、年月と共に改善しなければならないでしょう。毎年のCheck、Actionが適切に働くことを期待します。</p>
17	<p>・ 7 管理運営 目標3 Doの記述では毎週の様子に会議が行われていますが、その会議時間は適当なんでしょうか。時間が掛かりすぎているのではないのでしょうか。また電算機のCheckでは「教員と職員の合同研修会については、職員の業務の関係などもあり、定期的な開催に至っていない。」また、Ⅱ-2. の「指標」で、「電算システム変更に伴う事務体制の再整備による業務軽減の結果、減少する職員の超過勤務時間」が起こっているから結果としてB評価になっているのでしょうか。能率向上をしようとして、①そのひずみが出ているのか、②一時的な入力者の未熟練の現象なのか、③使用システムの非能率性が原因なのか、原因を見つけ出し分析して改善されることが望まれます。</p>

18	<p>・9 改革・改善 「1. 毎年の自己点検・評価の実施」の「指標」にあるように、「目標、指標の設定。毎年の自己点検・評価報告書の作成。2013年度の認証評価報告書作成。」が順調に進捗しA評価になっていることは大変良いこととあります。また、専門領域を同じくする他校との相互評価も「定期的な検討会の実施状況。検討の進捗状況。報告書作成。」が順調に進捗し良い結果を生み出していると思います。また、2. の、他校との内容公開は、問題点の発見や改善意欲を高め、緊張感を生み出し、良い刺激になったことと思われます。内部だけの評価に比べると数倍の時間と労力が掛かったことでしょうか、より良い結果に結びついていくのだと思われます。</p>
19	<p>・10 キリスト教主義教育 学院設立のミッションステートメントである「キリスト教主義教育」は大変重要な内容ですが、非キリスト教国で、宗教に関心の低い日本にとって難問です。Ⅱ-1. 「指標のオリエンテーション、授業、学校礼拝、諸行事等の実施状況。」が適切に実施されA評価になったことは喜ばしいことです。Ⅱ-2. 「教職員に対する研修会の開催。学校礼拝、諸行事などへの積極的な参加。」についてもD評価からA評価になったことは素晴らしいことです。キリスト教主義の学校に奉職している方々が、キリスト教に関心と興味を示さなければ学生への「キリスト教主義教育」は不可能になります。研修会、礼拝、諸活動の参加から、行動へ移す方へ、信じる方へ、一歩前進することを求めます。</p>
20	<p>・11 人権教育・人権問題 目標、「1. 人権に関するオリエンテーションおよびパンフレットの充実、「指標」オリエンテーションの実施状況およびパンフレットの検討の進捗状況」の進捗状況（達成度）が2010年から2013年までB評価なのは残念です。D o :に記載の「人権に関するパンフレットは作成できていない」ことが理由なのでしょうか。その理由として「入学時に配付する「要覧」にキャンパスハラスメントについて記載している。」ので必要ないということでしょうか。C h e c k :には「現在は、「要覧」にキャンパスハラスメントについて記載するにとどまっているため、人権全般に関するパンフレット作成が課題である。」となっていて、A c t i o n : 「パンフレットを作成して、さらなる人権意識の向上に努める。」とあるので、これは担当部署の怠慢だと思われます。パンフレットを作成するのに3年も掛からないので、作らない理由があると思われるので、その原因を早急に排除して作成する事が望まれます。</p>
21	<p>・12 ボランティア活動・教育 目標1 C h e c k : 「学生がボランティア活動に取り組もうという意識が向上した。」とありますが、どのようにC h e c kしたのでしょいか。その数値を明らかにすることが望まれます。目標2 D oで、それぞれの活動に参加した人数が記載されていますが、状況が明確に分かり大変良いことだと思われます。しかし、その人数についてですが、それはどのような意味を持っているのでしょうか。多いのですか？少ないのですか？学校としての目標数は幾らに設定したのですか。目標数を設定してそれに到達したがどうかで進捗状況や達成度を判断するようにしたいものですね。ボランティア活動は自主的な参加で数値とはなじまないものなのでしょうか。</p>
22	<p>・13 国際交流 「1. 国際理解のための教育および国際交流に関する基本方針の策定」が続けてD評価なのは、担当者がいなかったのか、意欲が無かったのか残念です。「2. グローバル化した阪神間の地域特性に合わせた国際感覚やコミュニケーション能力をもった保育者を育てるための教育の推進」はC評価ですが、「国際理解に関する科目を単独で設置することは非常に困難である」また、「海外研修旅行については、プログラム提供に向けて検討しているが、実習等との関係で日程調整が難しく、実現に至っていない。」ということが理由のようですが、特別の授業でなくても通常の実習にいつても外国人が園児の中にいるでしょうし、街を歩いていても外国人に出会うことの多い地域ですので、担当者を決めて取り組むことを期待します。このような評価が不可能ならば、評価内容や基準を検討することをすすめます。</p>
23	<p>・15 危機管理 2つの評価項目「マニュアルの作成」「避難訓練の実施」がB評価なのは残念です。阪神淡路大震災によって甚大な被害を受けた学校として、早急にマニュアル作成や避難訓練を実施する事を要望します。</p>
24	<p>・全体としてほとんどの項目において着実に実現に向かっていくことは評価できます。また、このような多くの改善は、P D C Aが回っていることを示し、評価できます。</p>
25	<p>・国際化交流の1「短期大学・・・」はDが続いています。これは、短期大学の課題と考えられます。短期大学単独では、困難な面があるかもしれません。Actionで述べているように、学院や大学との協力で改善されることが望まれます。</p>

26	<ul style="list-style-type: none"> ・同一法人内の幼稚園の園児や幼稚園教諭に協力を仰ぎ、現場と連携した授業等を行っていることは評価できます。（1. 教育の内容）
27	<ul style="list-style-type: none"> ・研究成果については、学内論集への投稿だけでなく、査読付きの論文提出が期待されます。（2. 教育の実施体制、5. 研究）
28	<ul style="list-style-type: none"> ・全科目について授業アンケートを実施していることは評価できますが、アンケート結果を授業の改善に活用する施策を早急に確立されることが望まれます。（3. 教育目標の達成度と教育の効果）
29	<ul style="list-style-type: none"> ・資格取得状況は、いずれも目標値をクリアし、評価できますが、ここ数年は、取得率が悪化傾向にあります。取得率の向上に向け、さらなる改善が期待されます。（3. 教育目標の達成度と教育の効果）
30	<ul style="list-style-type: none"> ・最近の受験生の多くは、ホームページを中心に情報を得ていると思われます。そのホームページが受験生からは好評であったことは、評価できます。（4. 学生支援）
31	<ul style="list-style-type: none"> ・短期大学の新入生の大部分は、推薦入学制度によるものです。従って、入学前教育は重要であると考えられます。過去の経験を踏まえ、早急に独自のプログラムを確立されることが望まれます。（4. 学生支援）
32	<ul style="list-style-type: none"> ・科研費申請への動機づけを行い、多くの教員が外部資金獲得意欲に目覚めることが求められます。（5. 研究）
33	<ul style="list-style-type: none"> ・他短期大学と大学間相互評価協定を結び実行していることは評価できます（9. 改革・改善）
34	<ul style="list-style-type: none"> ・人権に関するパンフレットの作成が求められる。いつまでに作成するかを期限を定めることも求められます。（11. 人権教育・人権問題）
35	<ul style="list-style-type: none"> ・改善点等に関しては、具体的な内容・期限等の記載が求められます。（11. 人権教育・人権問題）
36	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの学生がボランティア活動に参加していることは評価できます。（12. ボランティア活動・教育）
37	<ul style="list-style-type: none"> ・国際交流に対する姿勢が感じられません。「短期大学にとって国際交流とは」から議論を始める必要があります。（13. 国際交流）
38	<ul style="list-style-type: none"> ・1. 教育の内容(目標2、目標3) 保育現場と連携や卒業生の活用による知識獲得の多様な取り組みは大変評価できます。保育の現場では専門的知識と同時に、集団を統率する能力が重要と思われるので、その面の教育も望まれます。

39	<p>・ 1. 教育の内容（目標 2、目標 3） 実習は免許取得のために実施するだけでなく、その反省を通じて、学生の向上や教育内容に反映させることが必要と思われます。反省をどう生かすかの積極的取り組みが望まれます。</p>
40	<p>・ 6. 社会的活動（目標 2、目標 3） 子育て家庭のオープンセミナーの参加人数が減少傾向にあるようですが、報告書にも書かれていますように、セミナーのあり方の見直しが必要であると思われます。また、子育て家庭の悩み相談等もより積極的に実施することが求められます。</p>
41	<p>・ 13. 国際交流（目標 1、目標 2） 児童教育において発達教育等、欧米が進んでいる面も多いと思いますので、欧米研究機関との交流等も望まれます。</p>
42	<p>・ 全体的に改善に向けた取り組みは概ね適切になされており、評価できます。ただし、指標が「～の状況」「～の充実」のように明確でない、改善策が具体的でない、など、そのために自己点検・評価としてはあいまいになっている目標が散見されます。</p> <p>「1 教育の内容」の目標 5「FD 検討会による授業改善」では、複数回開催された検討会にほぼ全教員が参加し、授業改善にも取り組まれており評価できます。授業評価アンケートの結果にどんな変化があったのか検証することにより、より良い改善につながることを期待されます。目標 4「シラバスの充実」では、記載内容が整理、統一され、不完全シラバスが無くなったことで、授業内容の充実につながったこと、学生の理解が進んだことは評価できます。</p> <p>「3 教育目標の達成度と教育の効果」の目標 3「卒業生に対する評価方法」で報告されている、新卒者の生活経験やコミュニケーション能力の不足について、今後数年間にわたり状況を把握することです。今後の調査・検証を重ねることにより、具体的な改善策が施され、卒業生の社会的評価が上がることを期待されます。</p> <p>「4 学生支援」の目標 3「アンケート調査などによる学生生活の現状把握」で、3 年間実施した短大調査の結果について、課題の分析について検討中とあります。今後の記述にあるように、分析結果を具体的な学生支援に繋げるべく、関係部署で分析結果の情報が共有されることが望まれます。</p> <p>「5 研究」の目標 3「科研費等による研究奨励」で、年々活性化するも一部の教員に偏っているということですから、組織全体での取り組みが求められます。</p> <p>「7 管理運営」の目標 2「電算システム変更に伴う事務処理の効率化」では、指標に設定した、職員の超過勤務時間減少についての報告がありません。どれくらい減少したかの検証による効果の測定が望まれます。</p> <p>「12 ボランティア活動」の目標 1「しおりの作成と活用」で、しおりを配布することにより学生の意識が向上した、とありますが、例えばしおりの導入後にボランティアに参加する学生の数の変化について検証することで、効果を把握することが望まれます。</p> <p>「13 国際交流」は、報告のとおり、基本方針が策定できていないことは大きな課題です。組織的に推進するためにも、新中期計画との整合性を図りながら、早期に策定することが望まれます。</p> <p>「14 危機管理」は、危機管理能力を高めるために、避難訓練の実施と合わせて、救急マニュアルも学生、教職員に周知されることが望まれます。</p>
43	<p>・ 「改革・改善」の目標 2 について、進捗状況報告に「現在、結果報告書を作成中である」こと、また、設定された目標に「結果の活用」とあることから、進捗状況評価は「B」が適切と考えます。</p>
44	<p>・ 「国際交流」について、修業年限が 2 年と短く、また、四年制大学と同じ保育士資格の取得を目指すという教務上の特性から、学生にとっても国際交流を考える余裕が少ないのが実情だろうと推察します。設定されている目標は非常に重要なものではありませんが、その実現可能性も含めて、目標の内容が現状からみて妥当であるのかを真摯に検討する必要もあると考えます。</p>